

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778 長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.331

2022.08/03 (水曜) 13:00 発表

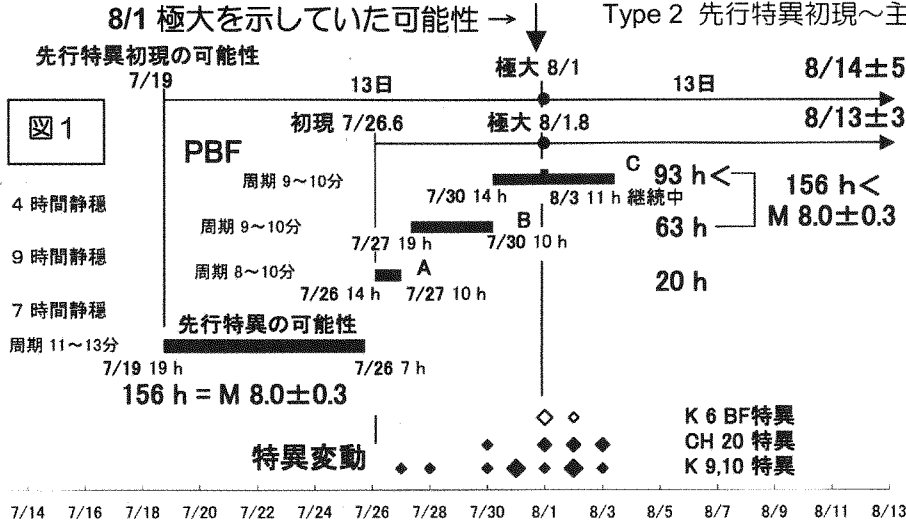
ハケ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778 長期継続前兆 続報 本日が発生時期誤差内の可能性は誤認識で 多数変動は 8/1 極大を示しており→8/1極大から次ステージ認識の可能性

14項目の前兆変動変化関係は

Type 1 先行特異初現～主前兆極大：主前兆極大～発生≒1：1

Type 2 先行特異初現～主前兆初現：主前兆初現～発生≒1：1



先行特異 Type 1 の可能性

Tfap:Tmap=20:13 より

初現～極大：極大～発生= 7:13

前続報では14項目の前兆変動変化関係は7月末±数日の時期を示していました。しかし7/19からハケ岳南麓の複数観測装置にPBF変動が出現しました。続報329、330、掲載波形参照。

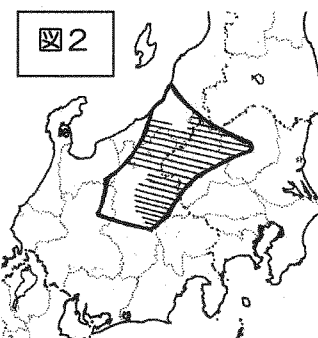
このPBFの中で図1のA～Cは、余震の前兆変動である可能性も否定できなかったため、多くの前兆変動変化が示した7月末±数日時期があくまでも対応地震

発生時期である可能性を考え、8/3（本日夜）までは誤差範囲である可能性として報告させて戴きました。しかし、本日現在までの前兆変動出現状況（図1参照）を鑑みますと、多数の前兆変動変化が示した時期の誤差内である8/1に極大があると認識できます。7/19夕刻から156時間切れ目無く継続出現したPBF変動は、その後出現のPBFと変動周期が異なること、8/1±時期を示すには誤差が大きく、根拠薄弱なこと等から8/1極大に関係した別の変動である可能性を考えました。この場合、過去観測例から考え易いのは、主前兆変動初現に先行して出現する「先行特異」の可能性です。先行特異は特異変動が主であったため、そう仮称していますが、変動形態はBTやPBFであっても問題はありません。先行特異には図1右上に記したとおり、主にType 1とType 2の2種があります。今回の場合はType 1の可能性が考え易い状況です（先行特異は過去例でも誤差が大きい）。さらに図1のAのPBFを主前兆変動の初現としますと、8/1の極大との関係から、8/13±3時期発生の可能性が計算できます。現認識は多数の変動変化から推定された時期が次ステージの前兆変動の極大を示すという、No.1778で20回以上観測された関係と同じで考え易い関係です。この認識が現状考え易いため、本日が発生時期の誤差範囲である可能性は否定されることになると思います。大変申し訳ございませんでした。8/1極大から次ステージとなった認識です。PBFのAは主前兆変動の初現認識ですが、AとBの間に9時間の静穏期間があることから、規模推定の根拠PBF出現継続時間計はBとCのみで計算しています。図1のPBF Cは明日～明後日までは継続し、終息する可能性があります。現状の図1の関係からは8/13±3発生の可能性が

計算できますが、8/13から次ステージとなり、発生時期はより先となる可能性や、現認識も誤認である可能性も完全否定困難です。しかし、まずは現認識が正しいか否か、そして現状考え易い8/13±発生の可能性が正しいか、観測と検討を続けます。現認識が正しい場合は、前回の認識が誤認となりますので深く謝罪致します。

No.1778 対応地震 推定内容

- ◆推定領域：図2太線内領域内（火山近傍領域）
斜線域＝可能性考え易い参考推定領域
- ◆推定規模：M8.0±0.3
地震に伴う近隣火山の噴火＝完全否定は困難
何らかの火山活動活発化の可能性否定困難
- ◆推定時期：現在の認識では2022年8月13日±3の
可能性が考えやすいが、今後の変化で修正



- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：AM 9:00±2 又は PM 5:00±3